

入選

親切のつながり

鹿児島県 財部小学校

三年 石田 凜花

わたしは、生まれたときから力がありません。だから、昔から足もおそいし、重いものを運ぶのにも時間がかかります。みんなと同じようにできないのがくやしくて、ないたときもありました。そんなとき、お母さんに、

「なんで、わたしは力がないの？ なんで、こんなに体が弱いのか？」

と聞きました。お母さんは、

「りんかは、きん肉のびょう気でみんなよりきん肉が少ないんだよ。でもね、みんなと同じにはできないけど、自分でできることをやればいいんだよ。」

と、言われました。

だから、できるだけ自分でできることはしようと思って、時間をかけてやっています。

でも、小学校の友だちは、わたしが重そうにしていると、よく手伝ってくれます。金かんバンドの練習に行くとき、きゅう校しゃのかいだんをのぼっていたら、重いにもつをいっしょにもってくれます。そうじのときも、つくえを運ぶとき、重くておそいので、

「手伝おうか。」

と、言って手伝ってくれます。くばりものかかりのときは、教科書をくばろうとすると、

「半分くばるよ。」

と言って、手伝ってくれる人がいます。そんなときわたしは、

「ありがとう。みんなやさしいな。」

と思い、心がぼかぼかします。

でも、やっぱりみんなの足をひっぱってしまうことがありました。

「1、2、3」

と長なわとびをしていたら、わたしがとぶと毎回引っかかってしまいます。

そんなとき、

「りんかさんは、とぶ数を数えたら。」

と、先生がわたしにできることを見つけてくれました。わたしにもできることがあったから、うれしかったです。

わたしのまわりには、やさしい人がいっぱいいます。人に親切にしたら、親切はかえってきます。わたしもだれか、こまっている友だちがいたら、助けてあげようと思います。

だから、ひとつ親切をされたら、ふたつ親切をしてあげます。そしたら親切な人がたくさんあつまり、えがおがいっぱいな世界になると思います。